

指導行政のポイント

なぜ秋田・福井の学力は高いのか

菱村 幸彦

全国学力調査結果の都道府県別データを見ると、秋田県と福井県の成績が高い。これはいかなる要因によるのか。それを調査・分析した研究報告書(注)がある。今回はそのポイントを紹介したい。

高い学力を生み出す6つの要因

報告書は、秋田県と福井県の学力の高さを生み出している共通要因として、次の6つの要因を挙げている。

(1) 教育行政の取組み 両県では、教員の授業力向上に重点を置いた教育政策が行われている。特徴的なことは、県独自の学力調査を20年以上実施し、その結果を各学校にフィードバックして、授業改善に活用するよう指導していること、県教委と市町村教委の指導主事が定期的に学校を訪問して、校内研修に参加し、研究授業を通して授業力向上の働きかけを行っていることである。

(2) 学校を支援する組織・団体 両県では、学校を支援する組織・団体として、教職員組合、教員の自主的な研究会、校長会、教頭会、退職校長のOB会等が教員の授業力向上のため積極的な働きかけを行っている。

(3) 学校における取組み 両県では、学校内に管理職と教員の間に対立関係がなく、教員全員が共通理解に基づき学力向上に向けた指導に取り組んでいる。具体的には、校長のリーダーシップによる授業改善が行われている、効果的指導法をほぼ全員が共有している、児童・生徒が家庭で自主学習を行うよう指導している、考えて書く活動や発表する活動を多く取り入れている、始業前や休み時間に基礎的学習を行う時間を設けている、ノート指導を徹底している、子どもの体育・体力の向上に取り組んでいる、教材・教具の工夫・開発に積極的である、ミニテストでできるまでやり抜く指導

をしている 等である。

(4) 児童・生徒の要因 両県の児童・生徒は、授業規律を守り、何ごとにも集中して、まじめに取り組み、教員の指導を素直に受け入れている。教員が必要な指導を怠れば、学級や学校の荒れとなるので、教員は徹底した授業規律の指導を行っている。

(5) 家庭の要因 両県とも家庭が落ち着いており、子どもたちが安心して過ごすことができ、学習やしつけが豊かに行われている。

(6) 歴史的・風土的・地理的要因 両県には、まじめさや素直さの伝統を受け継ぎ、厳しい自然を生き抜く勤勉で連帯感のある風土がある。

当たり前のことを徹底してやる

これを見て、どう思われるか。報告書を読んで感じたのは、次の3点だ。

第1に、学校経営に対立や混乱がないこと。両県では、教育委員会と学校の間、校長と教職員の間、教師と児童・生徒の間に対立や混乱がなく、教育の実践の場に規律と秩序が確立していることである。

第2は、当たり前のことを徹底して行っていること。両県の取組みをみると、他の都道府県でやっていないような特別の指導を行っているわけではない。どこでもやっている当たり前のことを行っている。ただ、違うのは、その当たり前のことを教員全員が徹底してやっていることだ。

第3は、学校を家庭・地域等が支えていること。学力向上には、学校をとりまく家庭や地域等の協力が大切であることを示している。

(注) 早稲田大学研究チーム(代表・田中博之教授)による『全国学力・学習状況において比較的良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育政策・教育指導等の特徴に関する調査研究』(2011年)

(ひしむら・ゆきひこ=(財)学習ソフトウェア情報研究所の理事長)

●2月27日発売! 教頭・副校長が仕事を効率的に進めるための工夫やアイデアを具体的に提示!

教頭の仕事術—効率的に職務を進める知恵とコツ

【編集】藤井穂高(東京学芸大学教職大学院教授)

A5判 208頁/定価 2310円

研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください(24時間受付・即日発送)